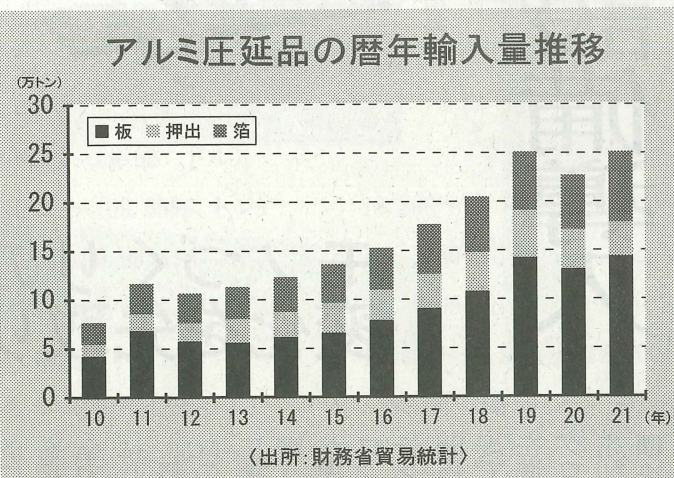


韓国材も3万3897ト(12・9%増)、タイ材は1万5734ト(0・8%増)、台湾材が1万1709ト(25・7%増)へそれぞれ増加した。一方で米国材は2414ト(67・0%減)と大きく量を減らした。押出類は14・0%減の3万4499トで2年連続の減少。前年にトップシェアだったタイ材が3割減の7397ト(28・8%減)、2位の中国材が6469ト(20・8%減)と振るわなかった一方、ベトナム材が5割増の9469ト(47・4%増)となり首位に立った。このほか米国材も6割減の3254ト(58・5%減)と大きく減少した。韓国材は3919ト(5・7%増)だった。箔は、30・9%増の7万3361トで過去最高だった19年の6万ト強を約1万3千ト上回った。全体の8割を占める中国材は3割以上増加となる6万1597ト(35・9%増)となり、マレーシア材も6245ト(13・6%増)に増加。ギリシヤ材は1496ト(7・4%減)だった。主な輸入先の国別内訳は次の通り。(単位：トン、カッコ内前年同期比)

▽中国14万48(23・9%増)▽韓国13万9276(12・5%増)▽タイ12万3333(10・8%減)▽台湾1万2990(23・9%増)▽ベトナム11万9512(46・9%増)▽米国16405(59・2%減)▽マレーシア16343(12・2%増)



設したことを受け、デで存在感を示した。その後も伸銅メーカーからスリッター3基、パンケキスリッター1基が設置されている。トラススリッターは、条割りしたコイルをミンシンのように巻き芯の幅方向に板条を

日本AMPは静岡工場を立ち上げた当時、電子材料用の黄銅条を米国から輸入して自社でスリット加工してい

東特巻線 高性能溶接機を導入

リッツ線端末加工を本格化

リッツ線は細径の絶縁銅線を燃り合わせた材料。これまで同社はリッツ線の端末加工を、はんだ付けによって少量行っていた。だがリッツ線を構成する絶縁銅線の本数が増加し、数千本を燃り合わせた製品が多くなってきたことから、端末加工に時間を要することなどが課題となっていた。

リッツ線は細径の絶縁銅線を燃り合わせた材料。これまで同社はリッツ線の端末加工を、はんだ付けによって少量行っていた。だがリッツ線を構成する絶縁銅線の本数が増加し、数千本を燃り合わせた製品が多くなってきたことから、端末加工に時間を要することなどが課題となっていた。

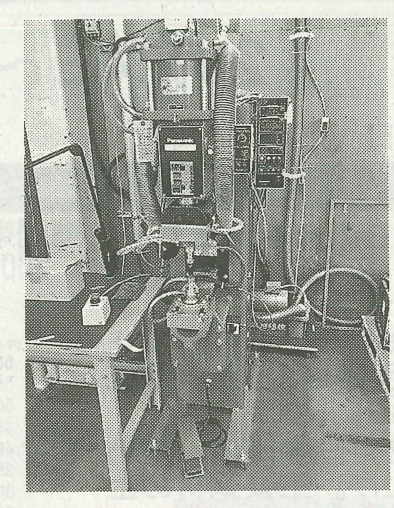
リッツ線は細径の絶縁銅線を燃り合わせた材料。これまで同社はリッツ線の端末加工を、はんだ付けによって少量行っていた。だがリッツ線を構成する絶縁銅線の本数が増加し、数千本を燃り合わせた製品が多くなってきたことから、端末加工に時間を要することなどが課題となっていた。

JX金属 酸化ガリウム結晶の開発

ノベルクリスタル社に追加出資

JX金属は21日、酸化ガリウム結晶の開発を行うスタートアップ企業ノベルクリスタル社に追加出資した。

酸化ガリウム結晶の開発が新たに実施した第三者割当増資の一部を引き受け、追加出資した。



リッツ線は細径の絶縁銅線を燃り合わせた材料。これまで同社はリッツ線の端末加工を、はんだ付けによって少量行っていた。だがリッツ線を構成する絶縁銅線の本数が増加し、数千本を燃り合わせた製品が多くなってきたことから、端末加工に時間を要することなどが課題となっていた。

リッツ線は細径の絶縁銅線を燃り合わせた材料。これまで同社はリッツ線の端末加工を、はんだ付けによって少量行っていた。だがリッツ線を構成する絶縁銅線の本数が増加し、数千本を燃り合わせた製品が多くなってきたことから、端末加工に時間を要することなどが課題となっていた。

リッツ線は細径の絶縁銅線を燃り合わせた材料。これまで同社はリッツ線の端末加工を、はんだ付けによって少量行っていた。だがリッツ線を構成する絶縁銅線の本数が増加し、数千本を燃り合わせた製品が多くなってきたことから、端末加工に時間を要することなどが課題となっていた。



飛躍！三ツ星 2022展

三ツ星(本社・大阪区、社長・競良一氏)が今年予定する高電圧対応タイオードの製品化に向けた製造能力増強と発表した。これまでの協業を引き続き推進し、両社の技術や知見を組み合わせることで次々世代のパワーデバイス用材料として期待されている酸化ガリウムの早期実用化に注力する。

同社は2020年6月にNCTに資本参画し、原料開発などの協業を行ってきた。今回の追加出資は、NCTが今年予定する高電圧対応タイオードの製品化に向けた製造能力増強と発表した。これまでの協業を引き続き推進し、両社の技術や知見を組み合わせることで次々世代のパワーデバイス用材料として期待されている酸化ガリウムの早期実用化に注力する。

同社は2020年6月にNCTに資本参画し、原料開発などの協業を行ってきた。今回の追加出資は、NCTが今年予定する高電圧対応タイオードの製品化に向けた製造能力増強と発表した。これまでの協業を引き続き推進し、両社の技術や知見を組み合わせることで次々世代のパワーデバイス用材料として期待されている酸化ガリウムの早期実用化に注力する。

増設した新鋭トラバーススリッター

静岡加工センターの操作をめぐっては、車載用の端子・コネクタや半導体関連需要の増加を受けてフル稼働